

## 考えてみよう

フォト・ジャーナリスト 伊藤孝司さんにインタビューしました。

**世界をまわると、聞こえる地球の叫び。  
それを写真に撮っています。**



地球温暖化の問題をはだで感じている人に話を聞いてみよう。そう思って、県内に住むフォト・ジャーナリストの伊藤孝司さんをたずねてみました。伊藤さんは、地球温暖化は人間がすぐに解決しなければならない問題だとして、世界各地の環境問題取材しています。また、三重県の人権フォトコンテストの審査員もしています。



ツバルの海岸

### Q1 地球温暖化の影響取材をしに訪れたのは、どんな国ですか？

**A1**：太平洋にある、マーシャル諸島、ツバルなどです。2001年に行ったマーシャル諸島は29の島からできている国です。砂浜はサンゴのかけらなので、目が痛いくらい真っ白です。海からそこに近づくと、ぼつぼつ倒れているものが見えるんです。やしの木です。まだ、青々としているんですよ。まさか、こんな形で海の水の高さが上がって海岸がけずられ、見渡す限り木が倒れているとは思わなかったので、相当にショックでした。

### Q2 ツバルでも、同じ状況ですか？

**A2**：2003年に行ったんですが、もっとひどいです。自分たちで食べるものを自分たちで作っている社会なのに、毎日食べているバナナやタロイモが水に沈むと、海水の塩で色が変わり、実もできなくなります。生活に困るようになってきているんです。ツバルは世界で四番目に小さな国です。先進国などの影響で自分の国が沈んでなくなってしまうと言われているのです。



サンゴ礁でできた島

### Q3 なぜ、先進国などの影響といえるのですか？

**A3**：たとえば、1996年に世界中でだされた二酸化炭素のうち、マーシャル諸島がだしているのは、たったの0.004パーセント。日本は約5パーセントです。石油などをたくさん使う暮らしをしている人々がいる一方で、自然の恵みに感謝して、電力もお金もほとんど使わずに暮らしている人々が世界にはいます。

### Q4 すると、伊藤さんはふだんどのようなことに気をつけて暮らしているのですか？

**A4**：取材で飛行機や車に乗っているので、自分の生活の中では、できるだけむだなエネルギーを使わないようにしています。40分ぐらいの場所なら、歩いてしまいます。紙は100パーセント、リサイクルのものを使っていますよ。

### Q5 最後に、子どもたちに伝えたいことは何ですか？

**A5**：100回以上も外国に行くと、日本はとても自然に恵まれた国だと感じます。が、もう努力なしにその自然を守ることはできないと知ってほしいのです。



ウツボをとる子供たち